科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 28 年 6 月 20 日現在

機関番号: 32409

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2012~2015

課題番号: 24500387

研究課題名(和文)大脳皮質体性感覚野バレル形成における活動依存性Notchシグナリングの役割

研究課題名(英文)Activity-Dependent Notch signaling is required for the barrel formation in the somatosensory system of mouse brains.

研究代表者

中尾 啓子(Nakao, Keiko)

埼玉医科大学・医学部・講師

研究者番号:70338185

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文):Notchシグナル関連分子は、最終分裂を終えた後の神経細胞でも引き続き発現し、視床ー皮質軸債黒の入力を受けて活動依存的に形成される第四層のバレルシステムにおいて、入力依存的にそのシグナル活性が活性化されること及びその活性がバレルシステムの形成に関与していることを子宮内エレクトロポレーション法によるNotchシグナルのノックダウン及び活性型Notchの強制発現により明らかにした。

研究成果の概要(英文): Notch signaling has a key role in cell fate specification in the developping brains. However Notch related genes are continuously expressed in the postmitotic neurons after completion of the last cell division. Notch signaling is activated in the c-Fos positive neurons. Downregulation or overexpression of Notch caused disruption of barrel cortex, suggestion that Notch signaling is required for the barrel formation in the developing mouse brains.

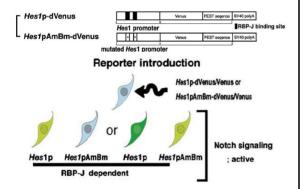
研究分野: 神経発生過程におけるNotchシグナリングの機能

キーワード: Notch シグナル 神経活動依存的シグナル伝達 子宮内電気穿孔法 c-Fos barrel cortex

1.研究開始当初の背景

Notch シグナル伝達系は、特に神経系の初期 発生の様々な場面において細胞分化に決定 的な役割を果たす働くことが知られている。 しかし、Notch シグナル関連分子は、最終分 裂を終えた神経細胞においても引き続き発 現し続けることも知られている。最終分裂を 終えた神経細胞は、移動しながらそれぞれの 神経細胞の運命に従って異なる層に分布し、 可塑的な機能分化(成熟)をしながら神経回 路に組み込まれる。近年になって Notch シグ ナルは、ショウジョウバエの嗅覚神経系やマ ウス海馬において、電気活動依存性に活性化 されて、神経系の可塑的変化に関与している ということが報告された(Lieber et al Neuron2011、Alberi et al Neuron 2011)。 げ っ歯類の大脳皮質体性感覚野第 層におい ては樽状のバレルと呼ばれる特殊な構造が 形成されるが、ヒゲ(洞毛)を焼灼して外部 からの入力を遮断するとそれに対応する第 IV 層のバレルが縮退することなどから、バレ ルシステムの形成が外部入力や神経活動に 依存していることは知られているが、未だに バレル形成の分子機構については 未解明の 部分が多い。

我々は、かつて RBPJ-k 依存的な Notch シグナルの活性を in vivo で検出できるレポーター(下図) を開発したが (Kohyama et al Dev. Biol. 2005 特許第 4599610 号(平成 22 年 10月 8 日)、Tokunaga et al J Neurochem. 2004)。



このレポーターを子宮内エレクトロポレーションによりに導入したところ、バレル形成期に第 IV 層の興奮性神経細胞において一過性に Notch シグナルの活性が RBP-Jk 依存的に上昇していることを見いだした。

2. 研究の目的

Notch シグナル関連分子が発生過程において種々の細胞分化に決定的な役割を果たしていることは我々も含めて多くの研究者が明らかにしてきたことであるが、Notch シグナル関連分子は、最終分裂を終えた神経細胞でも引き続き発現している。我々は、子宮内電気穿孔法で Notch シグナルのレポーター遺

伝子を導入し1次体性感覚野バレルシステ ム第4層の興奮性神経細胞でもNotchシグナ ルが活性化されていることを見いだした。神 経細胞は最終分裂を終えた後の神経回路形 成の中で活動依存的にダイナミックなリモ デリングを行うが、視床-皮質軸索路の入力 を受けて活動依存的に形成される第4層の バレルシステムにおいて活性化されている Notch シグナルは発生過程同様ダイナミック な変化(神経細胞の形態変化(樹状突起や軸 索)、シナプス形成、可塑性)に重要な役割 を果たしている可能性が考えられた。そこで 本研究では、神経活動依存的な Notch シグナ ルが大脳皮質体性感覚野バレルシステムの 形成に果たす役割を解明することを目的と する。さらに、Notch シグナル活性を指標と して神経回路全体の形成機構の理解にもつ なげる。

3. 研究の方法

Notch シグナルの活性を in vivo で視覚化できるレポーターコンストラクトを一次体性感覚野第 IV 層興奮性神経細胞における Notch シグナルの活性化の詳細を解析し、活動依存的、リガンド依存的な Notch シグナルの活性化の詳細を明らかにする。次に Notch シグナルの活動依存的活性化が体性感覚野バレルシステム形成において果たす役割を Notch shRNA 型ベクターの子宮内エレクトロポレーション法により Notch 遺伝子を不活化し(1))バレル内の神経細胞の形態(樹状突起の微細形態と軸索の投射パターン)(2)バレル構造の形成に異常が生じるかどうかを免疫組織化学的手法で解析した。

4. 研究成果

生後のマウス脳内でNotchシグナリングがいつどのように活性化されているのかを我々の開発したNotchレポーターで詳細に解析したところ P10 の体性感覚野で c-fo 陽性の神経細胞内で一過性に強い活性が見られた。Notchの細胞内ドメイン(cleaved Notch)特別ではいるででで、Notchの活性が確認できったの抗体によっても同様の活性が確認できったで、Notchの無限内ドメイン(活性型であるスミッド及び Notch の細胞内ドメイン(活性型)をその時期のマウス脳で発現させたとのにしたのの入力に依存して活性化されることが明らの入力に依存して活性化されることがいいル形成にとって必要であることが明らかになった。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

[雑誌論文](計 1件)

1. Hori K, Nagai T, Shan W, Sakamoto A,

Taya S, Hashimoto R, Hayashi T, Abe M, Yamazaki M, <u>Nakao K</u>, Nishioka T, Sakimura K, amada K, Kaibuchi K, <u>Hoshino M</u>

Cytoskeletal regulation of AUTS2 in neuronal migration and neuritogenesis.

Cell Reports, 9, 2166-2179 (2014) (査読あり)

[学会発表](計22件) 1.<u>中尾啓子</u>、松本恵 熊谷 恵、溝 井 令一、荒木 信夫、池田 正明、 今井 貴雄 In vivo 電気穿孔法を用いて作成

In vivo 電気穿孔法を用いて作成 した眼咽頭筋ジストロフィー疾患 モデルにおける原因遺伝子 PABPN1 の機能解析

第38回日本分子生物学会年会 神戸ポートアイランド(兵庫県、神 戸市)2015.12.01-04

2.小泉 恵太、<u>中尾啓子</u>、中島 日 出夫ストレスホルモン、グル子コルチ

ストレスホルモン、グル子コルチコイド応答分子、Hit の機能解析第38回日本分子生物学会年会神戸ポートアイランド(兵庫県、神戸市)2015.12.01-04

3.Keita Koizumi, <u>Keiko Nakao</u>, Hideo Nakajima A newly identified stres hormone responsive molecule, Hit, regulates nuclear transport of Glucocorticoid Receptor The 58th Annual Meeting of the Japanese Society for Neurochemistry. 2015.09.11-13 大宮ソニックシティ(埼玉県、さいたま市)

4.Hori K, Nagai T, Shan W, Sakamoto A, Taya S, Hashimoto R, Hayashi T, Abe M, Yamazaki M, Nakao K, Nishioka T, Sakimura K, Yamada K, Kaibuchi K, Hoshino M: Roles of the autism susceptibility candidate gene Auts2 forneuronal migration and neuritogenesis in the developing brain . 第 58 回日本神経化学会大会 . 埼玉県さいたま市: 20150911 - 20150913

5.K.Koizumi, <u>K.Nakao</u>, H.Nakajima Study if a newly identidied molecule that respond to a stress hormone ,glucocorticoid. Society of Neurosicence Chicago,IL, USA 2015,10.17-21

6.Hoshino M, Nagai T, Shen W, Sakamoto A, Taya S, Hashimoto R, Hayashi T, Abe M, Yamazaki M, Nakao K, Nishioka T, Sakimura K, Yamada K, Kaibuchi K, Hori K: Cytoplasmic function of AUTS2 in neural network formation . Society for Neuroscience 45th annual meeting . Chicago, IL, USA: 20151017 - 20151021

7..K. Koizumi, M. Ito, <u>K. Nakao</u>, H. Nakajima Functional analysis of FAM107B, a newly identified stress hormone responsive molecule. Society for Neuroscience. Washington DC,USA 2014.11.15-19

8...<u>Nakao,K.</u>, Matsumoto, M., Kumagai,M., Mizoi,R., Ikeda, M. Development of oculopharyngeal muscular dystrophy (OPMD) disease model by persis tent expression of patient-type PABPN1 mutant genes by high-efficiency in vivo e lectroporation to muscle tissues The 37th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan. 2014.11. 25-27 Pacifico Yokohama (神奈川県、横浜市)

9.Keita Koizumi, <u>Keiko Nakao</u>, Hideo Nakajima A stress hormone responsive molecule, FAM107B shows critical effects on prenatal neural development The 37th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan. 2014.11. 25-27 Pacifico Yokohama (神奈川県、横浜市)

10.堀 啓、永井 択、Wei Shan、坂本 亜沙美、田谷 真一郎、橋本 了哉、林 宗、阿部 学、山崎 真弥、中尾 啓子、西岡 朋生、崎村 健司、山田 清文、貝渕弘 三、星野 幹雄大脳発生における新規自閉症関連遺伝子の生理機能の解明第 37 回日本分子生物学会年会. 2014.11.25-27 Pacifico Yokohama (神奈川県、横浜市)

11.K.Koizumi, M.Ito<u>, K.Nakao,</u> H.Nakajima

Functional analysis of FAM107B, a newly identified stress hormone responsive molecule.

The 57th Annual Meeting of the Japanese Society for Neurochemistry. 2014.09.29-10.1 奈良県文化会館&新公会堂(奈良県奈良市)

12.Hori K, Nagai T, Shan W, Sakamoto A, Taya S, Abe M, Yamazaki M, <u>Nakao K</u>, Nishioka T, Sakimura K, Yamada K, Kaibuchi K, <u>Hoshino M</u>: Cytoskeletal regulation by AUTS2 in Neuronal migration and neuritogenesis . International Symposium "New Frontier of Neuropathology 2014" . Tokyo, Japan: 20140316 – 20140317

13. Keiko Nakao, Megumi Kumagai, Reiichi Mizoi, Emi Tani, Megumi Matsumoto, Masaaki Ikeda, Nobuo Araki Development of oculopharyngeal muscular dystrophy (OPMD) disease model by persistent expression of patient-type PABPN1 mutant genes by high-efficiency in vivo electroporation to muscle tissues 第36回日本分子生物学会年会 2013年12月03日~2013年12月06日神戸ポートアイランド(兵庫県神戸市)

14.Keita Koizumi, <u>Keiko Nakao</u>, Haruhiro Higashida, Hideo Nakajima New Candidate Genes Critical for Human Developmental Disorders Such as Autism and Mental Retardation. (自閉症、精神遅滞などの 発達障害に関わることが期待される新規遺 伝子)

第36回日本分子生物学会年会 2013年12月03日~2013年12月06日 神戸ポートアイランド (兵庫県神戸市)

15. Keita Koizumi, <u>Keiko Nakao</u>, Hideo Nakajima

Study of new candidate genes that may have critical role for autism and also schizophrenia.

Society for Neuroscience. San Diego, California, USA 2013.11.09-13

16.小泉 恵太、<u>中尾 啓子</u>、中島 日出夫

脳発達障害に関わることが期待される新規 遺伝子の解析

Study of new candidate genes critical

for human developmental disorders 日本神経科学会大会2013年06月20日~ 2013年06月23日 国立京都国際会館(京都府京都市)

17.Keita Koizumi, <u>Keiko Nakao</u>, Hideo Nakajima

Study of new candidate genes that may have critical role for autism and also schizophrenia. 第35回日本分子生物学会年会 福岡国際会議場・マリンメッセ福岡 (福岡県福岡市)2012年12月11日~12月14日

18. Keiko Nakao, Megumi Kumagai, Reiichi Mizoi, Emi Tani, Megumi Matsumoto, Masaaki, Ikeda, Nobuo Araki Development of Oculopharyngeal Muscular Dystrophy (OPMD) Disease Model by Persistent Expression of Patient-type PABPN1 Mutant Genes by High-efficiency in vivo Electroporation to Muscle Tissues. (高効率in vivo電気穿孔法を用いた眼咽頭筋ジストロフィー原因遺伝子PABPN1疾患変異型の筋肉組織における持続性発現による疾患モデルの作成)

第35回日本分子生物学会年会 福岡国際会議場・マリンメッセ福岡 (福岡県福岡市)2012年12月11日~12月14日

19.Keita Koizumi, <u>Keiko Nakao</u>, Hideo Nakajima Study of new candidate genes critical for human developmental disorders The 11th Biennial Meeting of the Asian Pacific Society for Neurochemistry The 55th Annual Meeting of the Japanese Society for Neurochemistry Kobe International Conference Center (兵庫県神戸市) 2012年09月30日~2012年10月02日

20. <u>Keiko Nakao</u>, <u>Chiaki Itami</u>, Mayumi Yamada, Fumitaka Kimura (<u>中尾 啓子</u>, <u>伊丹</u> <u>千晶</u>, 山田 真弓, 木村 文隆)

Electrophysiological and neurochemical analyses of neurons in the developmeing barrel cortex following in utero gene-transfer directed to the medial ganglionic eminence. 子宮内電気穿孔法により遺伝子導入された大脳皮質体性感覚野抑制性神経細胞の電気生理学的・神経化学的解析 The 35th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Nagoya Congress Center (愛知県名古屋市) 2012年09月18日~9月21日

21 Minako Orihara-Ono , Masako Toriya , **Keiko Nakao**, Hideyuki Okano

Downregulation of Notch mediates the seamless transition of individual Drosophila neuroepithelial progenitors into optic medullar neuroblasts during prolonged G1 ISSCR 2012 (国際幹細胞学会第10回年次大会) Pacifico Yokohama (神奈川県横浜市) 2012年6月13日~6月16日

22. 堀永 実, 丹羽 直也, 平澤 陽介, 勝井 政博, 花島 文成, 中平 洋子, 矢内原 仁, 朝倉 博孝, 中尾 啓子 正所性膀胱癌モデルにおけるin vivoエレク トロポレーション法の検討 第10 0回日本泌尿器科学会総会 パシフィコ 横浜 (神奈川県横浜市) 2012年04月21日 ~2012年04月24日

[図書](計3件)

- 1.「発生生物学〜基礎から応用展開〜」培風館 2017年刊行予定 塩尻信義、弥益恭、加藤容子、加野浩一郎、 中尾啓子 企画編集 第15章 発生生物学から再生医療への展開
- 2.新しい生物科学 培風館 2017年刊行予定 弥益恭、野口航、<u>中尾啓子</u> 企画編集 第11章 医療に貢献する生物学
- 3.動物の事典(共著) 朝倉書店、in press(2016年刊行予定) 7.6章「再生と組織幹細胞」 中尾啓子

[産業財産権]

出願状況(計 1件)

1.名称:抗膵ポリペプチド特異的モノクロー

ナル抗体

発明者:藤谷与士夫、原朱美、中尾啓子、綿

田裕孝

権利者:順天堂大学、埼玉医科大学

種類:特願

番号: 2015-246912 出願年月日:2015 年 12 月

国内外の別:国内

取得状況(計0件)

名称: 発明者: 権利者: 種類: 番号:

取得年月日: 国内外の別:

〔その他〕 ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

中尾 啓子(NAKAO、Keiko) 埼玉医科大学・医学部・講師

研究者番号: 70338185

(2)研究分担者

伊丹 千晶(ITAMI Chiaki) 埼玉医科大学・医学部・講師

研究者番号:90392430

*2012年4月~2012年8月のみ(2012年8月末辞退)

(3)連携研究者

星野 幹雄 (HOSHINO, Mikio) 独立行政法人国立精神・神経医療研究セン ター・神経センター病態生化学研究部・部 長

研究者番号:70301273